

○議長 小田 武人君

8 番、田島議員の一般質問を許します。田島議員。

○議員 8 番 田島 憲道君

8 番、田島憲道です。産業の活性化推進戦略について質問させていただきます。

皆さん、「真田丸」見ておりますか。昔から僕は真田幸村が大好きな武将の一人なんですが、今週は 9 話目でした。9 話。真田一族はですね、武田や織田が滅んだ後、徳川や北条、豊臣、上杉などの大大名に囲まれて、今、大変な状況なんです。幸村の父、昌幸はですね、一族や領土を守るために、お母さんや娘を人質に差し出したり、そして小県、武田の元家臣、小さい国の大名じゃないんですけど、その小県をまとめたりと厳しいかじ取りを強いられています。旗印はですね、有名な六文銭。まさに三途の川の渡し賃。本当これ、すさまじい思いを、気迫を感じております。小さい国ですが、知略を用いて大国と互角に渡り合える。そんな真田一族に芦屋町を見る思いがしております。

では、28 年の重要政策について、以下の点についてお尋ねします。

1 問目、この 4 月から国民宿舎マリンテラスの指定管理者が新たな事業者にかわりますが、観光の拠点として機能の向上や利用者増への取り組みなど大いに期待をしております。そこで、その事業主の企業概要やマリンテラスの今後の経営戦略をお尋ねします。質問です。

○議長 小田 武人君

執行部の答弁を求めます。地域づくり課長。

○地域づくり課長 井上 康治君

新指定管理者は株式会社グリーンハウスと言います。東京都新宿に本社を置き、資本金約 21 億円となっています。昭和 22 年の創業以来、「人に喜ばれてこそ会社は発展する」を社是として、フードサービスのトータルマネジメント企業として食を中心とした幅広い分野で事業を展開しています。社員食堂を初めとする事業所給食、ホテル、保育所、少年自然の家、レストラン事業、学校給食施設など、現在 22 カ所のホテル、6 カ所の指定管理施設の運営を行っています。今後の経営戦略については、3 月中に 28 年度の事業計画書が提出される予定となっています。今回は、応募時に提案された内容について答弁させていただきます。

指定管理者応募の際の現地見学会や実際に宿泊して施設内を見たときに、客室から共用部分の至る部分において、清掃やメンテナンスが不十分という印象を受けたようです。利用者にとって、宿泊施設の清潔さは優先度が高く、不快な思いをされるとなかなか利用していただくことはできないとのことで、まずは、清潔な施設環境となるように、現状以上の清掃、設備点検を実施し、より快適な施設運営を行っていくとのこと。また、宿泊した際に、従業員の笑顔や気のきいた接客は余りなく、教育研修が十分に行われていないと感じたそうです。現在の運営は、できるだけ

平成 28 年第 1 回定例会（田島憲道議員一般質問）

コストを抑えた運営となっており、本来実施しなければならない管理やサービスの提供が行われていない状況にあると見受けられたとのこと。このような状況では、顧客の満足度は下がり、利用者数の減少に歯どめがかからず、施設も経年以上に劣化し、結果的に施設自体の寿命を縮めることにつながると分析したようです。

そこで今回、グリーンハウスでは、本施設の運営方針を「末永く愛される施設～当たり前のことを当たり前～」と定め、施設の維持管理・修繕といったハード面はもちろん、従業員教育等のソフト面にも必要なコストをかけて、魅力的な施設をよみがえらせることで、10年後、20年度も利用者に愛される施設運営に取り組むとのことでした。

施設の集客向上、利用者サービス向上では、朝食や入浴の利用時間の延長、平日宿泊料金の低設定など。宣伝活動では、指定管理施設専門のセールススタッフを配置していることで、大手旅行代理店や修学旅行専門のエージェント等も取引があるとのこと。

ホームページのリニューアル、SNS（ソーシャルネットワークサービス）の活用など、定期的に研修を行うことでスタッフ接客サービスの向上、レディースセットなどの女性客へのサービス向上やベビー用品の貸出備品の充実など。

最後に、一番期待している食事については、全ホテル部門の総料理長がメニューを監修し、調理指導を行うとのこと。芦屋町ならではの食材をふんだんに取り入れた食事の提供、リゾート感あふれる夕食メニュー、ランチは宿泊客・観光客だけではなく、地元の方々にとって利用しやすいよう、幅広いメニューを用意するとのこと。また、人数、用途、予算に合わせて、宴会プランやバイキングプランを提供するとのことでした。

この提案に基づき、28年度の事業計画が作成されるものと思います。担当課としましては、事業者と協議・協力しながら、利用者に満足していただけるよう事業経営に努めていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 8番 田島 憲道君

ありがとうございます。まさに言っていることはそのとおりなんですけど、前回のマーチャント・バンカーズも最初はそうだったんですよ。そういうふうにもいろいろ、なだ万の料理長を連れて来るとか、ホテル日航の支配人が来るぞとか、そういうことを言っていました。私もですね、このグリーンハウスについて少々調べました。とても大きい会社です。資本金21億円で、グループ全体の売り上げは1,300億円で、ロイヤルホストと同規模ですね。創業者や現社長さんは、業界を束ねる日本フード協会の会長を長く務めていまして。創業者は大変立派な方なんで

すよ。創業は戦後間もなく、焼け野原の慶応大学の学生寮の食堂から始まりました。お金のない学生には、ただで御飯を食べさせてあげたそうなんです。それでその方たちが就職して、会社の規模が大きくなって、食堂をつくろうという話になると、あのグリーンハウスさんをお願いしようということで、どんどん成長していったということなんです。

ここは本当、ホテルマネジメントのプロフェッショナルなんです。それぞれのホームページの横のほうに書いてあるんですが、それぞれの施設の特徴をよく理解し、より一層付加価値を高めるために、ホテルオーナーとともに方向性を確認しながら、その施設にあった独自のマネジメントを行っています。いろいろ読んだら大変な自信とプライドで満ちあふれていました。

今回、指定管理でこのグリーンハウスが受けるということになりまして、課長が言われたように、料理やレストランの展開を大いに期待しておりますが、まだどうやら大きな動きはあっておりません。でですね、お客さんにとっては今回、事業者が変わるとか全くわからないんですよ。それはそれでいいかもしれませんが、現場の職員は大変混乱してしまっています。例えば4月からの宴会やら、法要などを受けてもですね、問い合わせが来ているそうなんですけども、料理などの詳しい説明ができないんですよ。新しく料理長が変わるということですね、それですね、9月議会で承認したわけなんです。もう半年経っているんですよ。宿泊の予約というのは半年前から入ってきます。ということはですね、もう10月1日から業務は始まっています。これまでのマーチャント・バンカーズや休暇村などの財務諸表や経営分析なんかをですね。そして、マーケティングや市場調査などをやっていると思うんですよ。しかしですね、4月からのメニューやパンフレットなど、こういったものをつくっている気配もないし、こういう業界はですね、定期的にお得意様とかリピーターに来てもらうためにDMとか送りますが、まだそういうことをやっていないそうなんです。

きのうですね、今田議員とちょっとランチにマリンテラスに行ってきました。お客さんが結構入っていたんですね。ちょっと待たされたんですが、年齢層が高いんですよ。見るとですね、ヘルパーさんたちがお年寄りをいっぱい連れて来ていて、そういう介護施設の日帰りのコースになっていると言っているんですね。聞いたんですよ、宿泊がどうなっているかということ、ほぼ連日満室になっている。これ、なぜでしょうか。これ、理由があつてですね、今、1泊1,000円で泊まれるんですよ。そのかわり、朝の御飯1,000円と夜の3,000円をつけて、一人5,000円で泊まれます。逆に素泊まりだとですね、8,300円なんです。まあ空室にしているよりかはいいだろうということなんです。これは稼働率は確かに上がります。上がりますが、これについて4月以降もこの企画をやるのかとか、そういうことが、問い合わせが代理店からあっているそうなんですが、現場はですね、まだどうしたらいいか指示がないから、また困っていると言っているんですよ。前回のときも、うまく引き継ぎができていませんでした。前の業者が

意地悪をしているというのをちょっと聞いていますけど、今、同じようなことが起きているのではないかと思うんですよ。その今の業者の気持ちもわからないでもないですが、料理もですね、土産品とか見ても、何かもう在庫処分の段階に入っているんじゃないかなということ。これはですね、芦屋町にとって大変な損失ではないかと思うんですよ。芦屋町にとって貴重な観光資源であります。マリンテラスを運用するためにはですね、どのような経営戦略で立て直すかを、我々は先ほど説明していただきましたが、期待しております。ただですね、2,000万の家賃、2,000万プラス消費税の家賃をもらえばいいのではというわけではありません。

そこですね、その芦屋町の主な観光産業について、私なりにちょっと個人的な主観も入っておりますが、SWOT分析をつくってみました。資料のSWOT分析をちょっと見ていただきたいと思います。芦屋町の強みのところにちょっと競艇が抜けてるんですよ。ちょっと皆さん入れていただけたらと思います。ちょっと波多野町長に怒られそうなんです。SWOT分析はですね、企業や事業の戦略策定やマーケティング戦略を導き出すための有名な経営分析のフレームワークです。戦略と言えばですね、有名なものには孫子の兵法があります。これ、わかりやすく言えば、戦略論の基本は自分の中の強み、弱みを知り、外にあるピンチ、脅威ですね。チャンス、オポチュニティ、機会を。ピンチとチャンスを察知して行動する。つまり、チャンスと強みが一致する得意な分野を最大限に伸ばします。逆に苦手な分野をほかから学びます。強みを伸ばして弱みを補うという両面戦略が競争戦略の基本であります。これらをわかりやすく示したのが、このSWOT分析です。参考にいただければと思います。それですね、このようなものから、セグメント分けをどうするか。ターゲットは変わらず修学旅行や介護施設なのか。これを判断していくのが戦略だと思います。

グリーンハウスさんの事業内容、先ほども説明ありましたが、ホテル、旅館の経営受託及び経営コンサルティングとあります。各種調査、分析プランニングなどをやっています。これ、経営戦略のプロ中のプロでありますから、言うに及ばずだと僕は思います。

そこですね、指定管理の納入金が、いわゆる家賃ですが、2,000万プラス消費税。これまでの事業者の6,000万から大幅に減額しています。今までの業者から見ればですね、最初から4,000万の利益が最初からあるわけですから。そこですねマリンテラスは開業して17年、オープン当初から働いている人、また長い人は何名かいます。聞くと本当悲惨な雇用状況であるのは、今までここでも何度か話しました。現在の支配人が、今回副支配人で残ることなんです。この副支配人さんも契約社員なんです。これからマリンテラスの従業員の中で辞める人、残る人あるでしょうが、雇用状況とか、雇用形態、給料と待遇とかどうなるのでしょうか。質問です。

○議長 小田 武人君

地域づくり課長。

○地域づくり課長 井上 康治君

現在、新旧の指定管理者間で引き継ぎ業務が行われているところです。従業員につきましては、パートを含め、今 47 名となっています。従業員の雇用、新規に引き継いだ雇用につきましては、1 月 19 日と 20 日にグリーンハウスによる会社説明会を実施しています。そのとき 31 名が参加し、9 名が不参加、7 名が入社意思がないことがわかったそうです。

1 月 27 日から 29 日、入社意志のある 40 名に対し個人面談を実施し、2 月 8 日と 9 日に条件を提示した面談を実施したとのことです。給与の条件提示は、現給よりも年収は下げないと聞いています。2 月 10 日から 26 日にかけて、入社書類の受け付けを行なった結果、38 名が提出、2 名が辞退したとのことです。

グリーンハウスの他のホテルから、支配人と料理長を配置するとのことで、現在、不足する従業員については募集をかけているようです。

以上です。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 8 番 田島 憲道君

年収は下げないということですが、大変悪い条件の中、皆さん、待遇面ですね、働いておるんですよ。この 5 年間ボーナスが一度もなかったそうなんです。それも引き継ぐということでしょうか。年収が下がらないということだから、そうだと思うんですけど。

芦屋町にとってマリントラスは少ない雇用の創出の場でもあります。しかし、それが全てがですね、時間給の臨時従業員なんです。競艇場の食堂もそうですけど、給食センターもしかりです。行政はですね、民間に委託すると、そのことのメリットばかり総括して説明します。その主たる要因は、行財政改革の核である経費削減であります。しかし、デメリットについてはですね、そういうことあるのはわかっておりますが、なかなか改善をしていただけません。

資料の 5 の民間委託のメリットとデメリットを御覧いただけますか。特にそのデメリットのですね、2 番、3 番、4 番、6 番、これ僕初めて、これ見たときに大変深く共感しました。これの出所はですね、僕が今、師事している永津教授なんです。この方は、北九州の末吉市長のときの懐刀の財政局長を長く務められた方なんです。

ここでですね、一般質問でいくらこんなことを言ってもですね、なかなか要望しても無理じゃないかと思ってしまうんですよ。この指定管理者にはこちらから何も言えないのかなと危惧しております。もしですね、今度のグリーンハウスさんに伝えていただけるなら、マリントラスの強みとグリーンハウスさんの強みを合わせてですね、マリントラスの弱みを補い、戦略を立て

てほしいと思います。芦屋町の大事な観光資源だと思うのです。

町長、いかがでしょうか。指定管理者に対していろいろ町長から、こうしたらいいんだ、あまたらいいんだ、料理をもっとよくしてくれと、そういうふうなことは気安く言えるのでしょうか。いいですか。

○議長 小田 武人君

町長。

○町長 波多野 茂丸君

議員の最初からの答弁をずっとお聞きして、全くそのとおりでございまして、芦屋町、今からもう何度もお話しています。ことしからですね、生まれ変わらなければならないとチェンジしないとならないという、その一つのポイントはやっぱり宿泊施設、唯一の宿泊施設。そしてお見えになった方は大体あそこで昼、ほとんどの方がランチをあそこで召し上がられるのではないかと考えております。重要なあそこが、マリンテラスがポイントになっておるということはもう言うまでもないことであって、議員御指摘のとおりであるわけでございます。

今、課長が語る説明しておりましたように、今ちょうど引き継ぎをですね、やっておる真っ最中のことでありまして。議員も言われましたように、前のマーチャント・バンカーズですか。議員言われたように、当初はすごいことを言われていたので。東京の日航ホテルの総料理長を連れて来ます。温かいものは温かいものでその器具も全部こちらに持って来ますということで、大いに期待しておったわけでございますが、ちょっと途中で怒りに変わったわけでございますが。

実は、きょうですね、お呼びしております。お呼びしておりますというのは、マネジメント責任者をですね。今、議員が言われたように、ただ利益追求、金儲けとかいうことは事業者だから当然でしょうが、芦屋町がこのマリンテラスに大いに期待することを私の口からですね、直接このマネジメント責任者にお話してですね、よく芦屋をまず知っていただきたい。そして町の今のやろうとしている戦略を説明させていただき、ここの重要性というものを一から説明申し上げて、経営に望んでいただきたいというようなことをですね、お話するつもりで、きょう午後にちょっと来ていただくようにしておるわけでございます。

全くこの中身のことにつきましてはですね、やっぱり手を突っ込むわけにはいけません。議員が今、いろいろ言われておりました待遇面だとかいろいろなことはですね、やはり、それは事業者のことでございますので、そこまでは手を突っ込むわけにはいけません。経営に望むに当たってのいわゆる芦屋町が大いに希望すること、そしてやってもらいたいこと、その立ち位置、その辺をきっちりお話させていただくわけでございます。もちろん、地元雇用の面もそうですし、雇用に関しましても待遇面についても、あまり突っ込むようなことなく、それなりの労務管理をよろしく願いますということになろうかと思っております。これぐらいでよろしいでしょうか。

（発言する者あり）

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 8 番 田島 憲道君

きょう本当タイミングよくお会いしていただくということで、そのときにちょっと伝えていただけるならですね、国民宿舎というその枠組みから抜け出してほしいと。ホテルになってほしいと僕は、思うんですよ。また門限があります。これを撤廃してほしい。自衛隊さんからよく聞きます。本当。それと夜でも宿泊客を、来たらもうチェックインさせるとかですね。それとグリーンハウスの強みである豚カツですね、これ豚カツ。これキャナルシティにもお店を出して、全国 70 店舗とか出しています。

僕、東京にいるときはもう、和幸派だったんですけど、豚カツのほかに中華とかイタ飯とかですね、外食メニューがあるんですけども、外食産業が強いところなんですけど、これをですね、レストランに生かしてほしい。そして、最後ですけど、展開しているそのホテルやレストラン、ここと提携とかですね、連携ができたらいんじゃないかと僕は思うんですよ。

そしてですね、この今回、ちょっと 28 年度国民宿舎特別会計予算で空調機器の工事が 960 万の予算がついておりましたが、これについて説明をちょっとお願いします。

○議長 小田 武人君

地域づくり課長。

○地域づくり課長 井上 康治君

少しお待ちください。申しわけありません。

空調機器はですね、現在一括ボイラーだきとかですね、クーラーで、一括で客室、ホール等全部流れるような形になっているんですが、それをですね、個別空調化ということでエアコンを各部屋、ホール等に設置を考えておまして、今回の予算につきましては、この空調等改修工事実施設計委託ということで、実施設計をする予定になっております。工事自体はうまくいけば次の年というふうに考えております。

以上になります。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 8 番 田島 憲道君

この個別空調で部屋ごとにクーラーをつけるということは、大変なお客さんからクレームが来ていたりとかして、このことで僕は支配人からちょっと話を聞いて、担当課に足を運んだことがありますけど。この 2,000 万円の家賃とですね、また、こういうことで好条件が、付加価値

平成 28 年第 1 回定例会（田島憲道議員一般質問）

がついているというこれはもう特典だと思うんですよ。だからグリーンハウスさんには大いに頑張ってもらいたいと思っています。そして、今までのちょっと一番の反省点は、支配人や料理人さんが地元の人間ではなかったということなんですよ。地元の、このいろいろな事情に疎いわけですよ。そして、正社員の雇用も少なかったと。同じ轍を踏まないようにしてもらいたいと思います。

続いて二つ目の、これは芦屋町の地方創生総合戦略の一つですね。芦屋ならではの企業支援として、ITクリエイターやサテライトオフィスの誘致のほか、空き店舗や空き家を生かした企業誘致についてお尋ねします。

○議長 小田 武人君

企画政策課長。

○企画政策課長 柴田 敬三君

芦屋町では、土地利用の観点から大きな企業の誘致は、大変難しい状況にあります。そのため、総合戦略を検討する中では、インターネットを活用することで、どこでも仕事ができる環境が整いますので、このようなことから、芦屋町の土地利用や立地環境、自然環境の特性を生かせるものとして、個人で起業できるIT関連やクリエイターと言われる職種に着目をしました。

大きなスペースを必要としないクリエイターなどであれば、空き家や空き店舗などを活用することで、設備投資も少なく済む上、有効活用にもつながりますので、このような考え方から、ここに力を入れようとしたものでございます。サテライトオフィスについては、都市圏などにある企業の一部の機能を、従業員の通勤や仕事環境を考慮し、地方に構えるものです。現在、北九州市も推進している事業ですが、今回、北九州市との連携中枢都市圏構想における連携事業にも想定されており、芦屋町としても、自然景観を売りに誘致していこうということになりました。

以上です。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 8番 田島 憲道君

便利な都会を離れて芦屋にオフィスを置く、このメリットというのは何でしょうか。それで資料4をちょっと御覧ください。福岡市の利便性です。福岡は最近ですね、人口が神戸を抜いたということです。また、世界でも有数ですね、住みよい都市。通勤・通学の利便性ということで、2位ということで評価されております。逆に北九州はですね、芦屋町ぐらいの人口が減ったということで、ワーストになっておりました。

サテライトオフィスとは、僕は平日、今、学校に通っていますが、キャンパスのある北方じゃなくて、小倉駅のビルの最上階にサテライトオフィス、サテライト教室があるんですよ。そちら

平成 28 年第 1 回定例会（田島憲道議員一般質問）

に通っております。九州大学もですね、博多駅にサテライト教室があります。伊都や箱崎キャンパスまで遠いので、博多駅につくことで、学生数もふえたということでもあります。

しかしですね、今回芦屋の場合は、芦屋町にオフィスをつくるということは、不便なところに持ってくるということなんです。そのメリットというのは、再度お聞きします。

○議長 小田 武人君

企画政策課長。

○企画政策課長 柴田 敬三君

サテライトオフィスは例えば、北九州圏域であれば通勤時間というのは1時間以内ではほぼ行かれると思いますけど、いろいろな御事情で、要は今のインターネット環境の中でですね、作業ができるだとか、その事務管理部門だけだとかですね、そういうところを仕事場の近いところ、家から近いところでできれば、それは合理的だということ、その辺が一番の利益、メリットになるのかなと思っています。

それとあと、芦屋町の場合の自然景観を売りにする場合、海を見ながらお仕事できて、ストレスも解消して、そういう環境の中で仕事したいという方もおられると思いますので、そういう意味でこういう分野を進めていきたい。要は、芦屋町の場合は大企業の工場とかいうのが難しい状況ですので、そういうところで小さいものと言いますか、小規模のものになるかと思います。

以上です。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 8 番 田島 憲道君

はい、あの一定の理解はしたいと思います。僕も海が大好きですから。特にですね、夏井ヶ浜にリゾートマンションですかね。あそこに海が好きで住んでいるサーファーが何人もいます。英語の、オーストラリア人の、英語の先生が、本城中学の先生なんですけど、やはりサーフィンが好きで、朝、サーフィンをして学校に行くと言うんですよ。特にですね、芦屋、この近辺は冬の海がいいということで、今が一番シーズンだと言っているんですよ。海が見えるところに住みたいとか、店をしたいという人がたくさんいます。糸島や二見ヶ浦、すごくはやっていますよね。海岸線におしゃれなカフェが立ち並んでいます。津波が来たら一発でおしまいじゃないかと思うんですけど、今じゃ東京や大阪の大手の資本が進出してですね、ものすごい飲食店が出ております。そのあたりはもともとサーファーが小屋みたいなところで、ハンバーガーとかホットドックを売って、小さな店舗から始めて今に至っております。海が見えるところで飲食店、お店ができる、また居住できるというのは、芦屋町にとってこれからの最大のチャンスになるのではないかと考えるんですよ。

芦屋港湾、無機質で機械的な寂しい雰囲気が出ておりますが、そのレジャー港化がですね、これが、もう、やっぱり芦屋町活性化の起爆剤となるのではと大変期待しております。

そして、この空き家対策ですね。空き家対策、空き店舗なんですけど、危険家屋の解体について助成金、今、出ております。町内至るところ更地になり、きれいになっております。大変評価しております。

その一方ではですね、特に自衛隊の方に多いんですけど、一軒家の借家に住みたいと言う人たちがいます。空き家はたくさんあるんですけど、貸せない家が多いんですよ。その理由はですね、リフォームにお金がかかるんですよ。所有者は、高齢者が多いので、もうそんなにお金をかけてもですね、「私、いつまで生きるんや。」と言うんですよ。それはですね、解体助成の補助金をですね、拡充するよりですね、中古の空き家をリノベーションして貸すために、この助成金を出すというのであればですね、何とかなるのではと思うんですよ。今はですね、リノベーションという、何回も言っているんですけど、中古住宅のこの再生事業はですね、新たな展開を迎えています。ぜひ、検討していただきたいと思います。

そしてですね、先日、沖縄の宜野座村というところに視察に行ってきました。ここは国の特区で、ITオペレーションパークを誘致しています。大変規模の大きいもので、総事業費 30 億円。特区ですから 9 割補助ですね。芦屋町がやろうとしたことが、これの小さい版、スモールオフィス版ということなんですけど、あまり現地、宜野座村でもですね雇用に関係ないということなんです。これはもう、議会で本当やかましく言われるということです。現在、雇用が 350 名。町内の人 が 36 名で、ほとんどが主婦の方がテレフォンアポイントですかね、電話の交換みたいなことで来ているということです。ドコモの IT サーバーと、あとオリックス関係のテレフォンアポイントセンターがあるかという話だったんですけど、移住者、沖縄にやってくる人は、沖縄好きでたまらない人たちばかりなんです。車で宜野座村まで 40 分で通勤します。これですね、芦屋町でも、もしそういうのができてですね、同じようなことが想定されるんじゃないかと思うんですよ。北九州やその近郊から通ってくるということです。出店する企業もですね、経営者が沖縄が好きということで、月一度でも沖縄に行けるだろうという、こんな簡単な特典に魅せられてですね、出店していると聞きました。この点を考えると、芦屋町はどうかと危惧しているところであります。クリエイティブな仕事はですね、都会の雑居ビルの中で生まれるよりかは、自然環境の中で生まれたほうが絶対いいものが生まれると僕は信じておりますので、今後の展開を大いに期待したいと思っております。

それでは、3 番の地産地消の推進についての取り組み。これについて質問します。

僕ら視察に行くと、受け入れ先の自治体にお土産を持って行くんですけど、これ、いつも困っております。芦屋町の地元産品がいいのですが、なかなかちょっとですね、芦屋釜もなかしから

平成 28 年第 1 回定例会（田島憲道議員一般質問）

よっと思いつきません。何カ所もあるとですね、これ、結構かさばったりと重たいんですよ。みりん干しもありますけど、これは事前にクールで送らないといけないし、本当お土産に困ってしまって、空港で「通りもん」とか一緒につけたりとかしておりますが。確か 5 年前、町制 120 周年のときに、特産品をつくろうとプロジェクトのようなものが始まって、きょうまでこういう状況が続いておりますが、これが 28 年度の事業政策の取り組みの一つとなっておりますので、お尋ねします。

○議長 小田 武人君

地域づくり課長。

○地域づくり課長 井上 康治君

平成 25 年度に策定した芦屋町観光基本構想に基づき、芦屋町商工会が主体となり、行政や関係団体等と連携し、あしやグルメ開発事業を行っています。平成 26 年度に実施した、地域力活用新事業全国展開支援事業により、観光・特産品に関する調査研究の結果を踏まえ、平成 27 年度に芦屋町の地域資源を活用した特産品等開発プロジェクト推進事業を本提案公募事業で実施しております。特に冬場に漁獲高が多く、さまざまな加工調理が可能なサワラ等を活用した飲食店における新メニュー開発や、町内の小売業者等で販売可能な特産品の試作開発を行ったところ、新市場の開拓や新規顧客の獲得に向け、手応えをつかむことができています。

またサワラ以外にも、このプロジェクト参画事業者による独自の新商品開発も進行中であるため、それらの商品も将来的に町の特産品として育成を図るため、商品改良等に係る支援やイベント等への出展による販路開拓支援についても、本プロジェクトであわせて支援すること。全町的な特産品の開発の機運を高めていきたいと考えています。

28 年度は、イベントや店頭で土産品として販売可能な加工食品等の開発、販路開拓へ向けた展示会等への出展、商品イメージ包装紙についての研究、新商品の広報、PR の推進に取り組んでいくとのことでした。

以上です。

○議長 小田 武人君

企画政策課長。

○企画政策課長 柴田 敬三君

あと、サワラの関係でふるさと財団の助成を受けて、今、地域再生マネージャー事業として総務省認定のアドバイザーを受け入れ、芦屋町の特徴を分析した上で、効果的なブランド化戦略のアドバイスを受けているところです。この取り組みの中で、商工会の特産品開発と一体となり、サワラを切り口に、漁業者においては販路拡大や消費拡大による魚価アップ、商工業者、特に飲食店においては売り上げ向上、観光事業者においては来町者増による経済効果、町においては P

平成 28 年第 1 回定例会（田島憲道議員一般質問）

R 効果とブランド化をそれぞれの相乗効果として取り組み、地産地消につなげていきたいというふうに考えております。

これらの事業では、町内の機運を高めることが重要であり、そのきっかけとして、28 年度にはサワラを生かした食のイベントも企画されており、現在ふるさと財団の助成事業として申請しているところでございます。

以上です。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 8 番 田島 憲道君

ありがとうございます。そうなんです、今、サワラなんですよね。これ、なかなか地元の人でもあまり食べる機会がないものなんです。

先日、石垣市へ行政視察で行って来ました。6 次産業を学んできました。沖縄における 6 次産業化、地産地消法に基づく事業計画の認定状況というものを調査してきました。国のですね、総合化事業計画では、全国で 2, 0 5 6 件を認定していると。沖縄の県内の認定は、現在 5 4 件となっております。これはですね、沖縄県の経済的規模から見たら大変多いそうなんです。これは本土にない多様な農産物があることと、観光客の土産品も含めて食品加工業が盛んであること。そして輸出を視野に入れた場合、成長市場であるアジア市場に近いという優位性があるということなどが背景にあるということです。その石垣市ではですね、10 品目が認定されています。そのうちの 5 品目はちょっとじり貧状態で、消えてしまうのではと説明されていましたが。その中でもですね、有力なものがいくつかあるんですが、これはですね、別に特別に何かをやっているわけではないと言うんです。6 次産業化といってもですね、昔から漁師のおばちゃんがつくっていたかまぼこやモズクのてんぷらですね、これ沖縄では有名ですよ。そういうことだったんです。これはですね、芦屋で言えばみりん干しのようなもの。また、イリコのようなものではないかと思うんです。

石垣市では、昔からパイナップルやサトウキビが主な特産品でした。これまで、いろいろな取り組みをやってきたと言うことですが、夏の台風シーズンで全てを失ってしまうと言うんです。4 月から 10 月までは、お金になるものは全くつくれないということですね。やはり、サトウキビだけは特別で、風に強いわけですよ。そのたもとに紅芋を植えるということで、まさに昔から伝わる生活の知恵から今の特産品が生まれています。そしてそれらの加工品ができているということなんです。

他の主な基幹産業では、パイナップル。これは、缶詰などの加工品への供給で、こちらは外国産に押されたりとか、あともう大口を納品できる農家が数件で頭打ち状態なんです。ほかにも

ですね、石垣牛、泡盛の生産も生産が限定されております。こちらも主な特産品の一つでありました。この石垣市はですね、年間 1 1 0 万人が滞在するという観光客の消費が 6 5 0 億円を超えています。そして、やはり観光地ですから、お土産で盛り上がっております。ですね、ちょっと石垣市のいくつかお土産を持って来ました。これ一部ですね。これ、有名ですよ。石垣の塩を使ったロイズの石垣島、ロイズのチョコレート。ロイズは北海道でしたよね。ポテトチップスにチョコレートをつけて、これ売ったら大変人気が出て、今これ、第二弾みたいな形で、石垣の塩チョコレート、これは大変人気なんです。あとはシークワサーキャンディとかですね、いっぱいあります。島ラー油の柿ピー、柿の種は、これは今、海外でもものすごく売れているそうなんです。ゴーヤのかりんとう、おいしそうでしょ。モズクのかりんとう、また海ぶどうのお菓子とかもあったんです。紅芋のタルトとかですね。いろいろあっております。その中で、これらはですね、島の人では思いつかなかったと言うんです。全て外からの人が作り出したと言っていました。そしてですね、最近ではですね、7 次産業でないとだめだと言うんです。そういう経営者の声があるそうです。7 次産業化とはですね、6 次産業化を地元で加工するという事で、これで紅芋のタルトやですね、ジェラートをつくる会社が石垣市に工場を稼働させているということです。

まあ、サワラがどのようにアレンジされていくのか、そしてやっぱり小さいサゴシと言うんですか、それを使った加工品が生まれていくのかということで大変期待しております。ことし町制 1 2 5 周年、ことしこそはそのプロジェクトが動き出してですね、成果につながることを期待しております。

続いて、4 番目の観光振興策として、地域おこし協力隊、これが 2 8 年度、芦屋町にもやってきます。地域外の人材により、新しい風を吹きこむということで、その実績は高く評価されています。芦屋町では、どのような分野でどのような活動を担っていくのか。また、どのような方が派遣されてくるのかお尋ねします。

○議長 小田 武人君

企画政策課長。

○企画政策課長 柴田 敬三君

今回地域おこし協力隊は、3 名募集しました。想定している活動は、地方創生を加速化させる目的で、観光分野の人材として、まず観光基本構想で掲げています観光施策推進のための組織体、観光推進プロジェクトを有機的に機能させ、町の新たな魅力創出や既存の資源への付加価値創出を狙った観光コーディネーターや地産地消でお話しましたブランド化戦略や食をテーマにしたイベント展開などを切り口に観光推進を図るコーディネーター、それと特に力を入れていく必要のある町の情報発信。この 3 分野としております。

多数の応募の中から、先般、最終選考を行ったところで、選考した方々は、途中 1 名辞退者がありました。男女 1 名ずつ計 2 名でいずれも県外の方でございます。観光コーディネーターや情報発信などの職務経験がある方々です。

地域おこし協力隊については、多くの自治体で導入していますが、成功例ばかりではありません。重要なのは、隊員を受け入れる町の機運が大切で、4 月から住民票を移し、移住してきます。行政がしっかりサポートしていくことはもちろんですが、町全体で隊員を受け入れ、そのパワーを発揮してもらえよう、関係者や町民の皆さんの御理解と御支援をお願いするところでございます。

以上です。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 8 番 田島 憲道君

1 名辞退者が出たということで、ちょっと、とても残念なことでありますが。実はですね、この地域おこし協力隊、この発案者に僕、去年の 12 月にですね、お会いしました。今ですね、首相官邸にいる山崎内閣総務官とお話しする機会がありました。彼はですね、40 代のときに北九州市役所に出向してしまして、東京に戻ってその後、直後にですね、リーマンショックがありました。そのときに大学生の内定取り消しがあつて、これが社会問題になったんですよ。これに、大変かわいそうだなあと思ったそう。そしてですね、何とまあ、海外青年協力隊の国内版をつくってはどうかということを出案したそうですね。現在、地方創生の起爆剤となって、各地で協力隊が活躍されています。僕がですね「地方への思いやり予算ですね。」と話したら「いや、それを言うなら若者に対する思いやり予算ですよ。」と答えてくれました。

2 年前に、3 年前ですかね、地域おこし協力隊が奮闘するドラマが四国の過疎の町を舞台にしたドラマがありましたが、それはちょっと置いておいてですね、課長も言われましたけど、不安に思うのはですね、いろいろありまして、彼らにどれだけの権限を与えるのかと思うんですよ。役場の事務補助のような扱いとかですね、臨時の雑用係とかでも何でもかんでも押しついたりすると、嫌になってくるんじゃないかと思うんですよ。芦屋町はとにかくイベントが多いので、手伝ってくれというような要請が頻繁にあると思います。それをですね、理解してくれるならいいのですが、「俺はこんなことをするために来たんじゃないぞ。」とか、そんなことを言ったりすることがあるのではないかと危惧しているところなんです。このですね、彼らが使える予算とかそういう自由裁量でですね、使える予算とかあるのか。権限と予算についてちょっと質問します。

○議長 小田 武人君

企画政策課長。

○企画政策課長 柴田 敬三君

目的はですね、最終的には芦屋町に移住してきてもらって、住んでもらわなくちゃいけない。そのためには仕事を自分で起業するか、興すか、それか芦屋町の企業さんに何らかの形で就職するか。そこが目的なんですけど、一応、計画としては3年間の計画ですので、最初の1年目につきましては、行政のほうからある程度仕事の配分をしないとイケないと考えております。ただ、やっぱりそういう目的のためには、ある程度個人的な自由な裁量、それから、自分のしたいこともあると思います。研究しなくちゃいけないこと、そういうところで、1年目からはある程度のパーセンテージによって、ある程度は自分で動けるような時間を与えたいと考えております。それを3年目に向けてだんだんとシフトしていくと。最終的には、起業するとなれば相当の事務量、仕事量になるかと思っておりますので、そこで行政があればこれもしないというのはいくらも無理な話ですので、そういうバランスというのは毎年、毎年、状況を見ながらですね、やっていこうかなと思っています。

あと、財源がどれだけかという話なんですけど、お金の話でいくと、予算措置は3人の予定で予算を組んでいましたので、大体1,200万ぐらいです。そのうちのもう半分以上が人件費でなくなるということです。ただ地域おこし協力隊、動いてもらわないとイケないので、公用車を買ったり、もちろんパソコン、机、椅子という、そういうのはそろえますけど、それ以外は基本的にはある程度クリエイティブな仕事をしてもらうような話ですので、自分の新しい企画をいろいろところで発表して、それが実現化できるかどうかというのが、今後出てくるかと思っておりますので、そのあたり、予算的、財源的なものが必要となれば、それはそれで、観光のほうで組むのか、企画のほうでどこで組むのかちょっとはつきりしませんが、予算化していきたいとは考えております。

以上です。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 8番 田島 憲道君

なんか温かく迎えていただけるという体制をちょっと聞きまして、本当安心しております。一般の人から見たら、何も知らない人から見たら、地域おこし協力隊の人が来ても、役場の新人さんが来たのかなというような感じで思っちゃうんじゃないかと思うので、一般に触れ合える町民に対しては、一目で地域おこし協力隊だとわかるようにしてあげたらいいのかなとか思うんですよ。またですね、この制度をよく理解してもらうために、二人ですか、広報誌で紹介したりとかいうような配慮も必要ではないかなと思います。このですね、地域おこし協力隊に対して、こ

平成 28 年第 1 回定例会（田島憲道議員一般質問）

のお二人にですね、町長から何か思いとメッセージを何かいただければなと思います。はい、質問です。最後によろしく願います。町長。

○議長 小田 武人君

町長。

○町長 波多野 茂丸君

今まではですね、今、議員も言われたように、プランだけはもう今までいくつも出るわけですよ。町内の中で。一向に、補助金もらいました、計画立てました、それが身には一つもなっていないということ。これはまあ、芦屋の一番悪いところということでもあります。やはり外部からの、議員も言われたようにですね、船井総研の方においでいただいて、本当に外部の方から見ていただいてどうかと診断してもらおう。これが一番大事なことだと思って、今回いろいろさせていただいております。地域おこし協力隊もそうであるわけでもあります。

私、今、議員が何かわかるようにと言って、「協力隊」とかジャンパーにしようたら、この協力隊という名前がですね、ボランティアに来て、人の足りないところを補いに来たのじゃないかというふうに思うのではないかなと思っているわけですね。この方たちは、やはり自分の人生をかけてここで起業しようと住民票を移すわけでございます。ここをついの住みかにしようという思いもおありで、お見えになろうかと思えますね。だから、そういうことで決定して、面接だけはさせていただいて、あとまだ諸般の手続が4月からあろうかと思えます。その折に、お二人に対していろいろ激励をしたいと思っております。

以上でございます。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 8番 田島 憲道君

ありがとうございます。

最後にですね、この資料の一番最後をちょっと見ていただきたいと思えます。河内しだれ藤、これはですね、タイの映画かテレビドラマか、タイだったかベトナムだったかな、ここで撮影されてこれがすごく反響を呼んで、タイから観光客が押し寄せてきて、今、国内でも大変な状況になっております。この下のこの光の道は、もうCM、JALのCMで皆さん御覧になっていると思えますけど、これもですね、場所を明かさずにやっていたら、大変なことになっているという状況ですよ。こういうのはやっぱり外からの視線なんですよ。まあ町を変えるのは、もう教育長が「よそ者、若者、ばか者」と教えていただきましたが、この外からのチャンスに大いに期待してですね、この地域おこし協力隊のこの二人の方を歓迎して、僕は本当、何かあれば僕も声をかけてもらえれば、一緒になって動きたいと思えますので、大いに期待して私の質問を終わら

平成 28 年第 1 回定例会（田島憲道議員一般質問）

させていただきます。ありがとうございました。

○議長 小田 武人君

以上で、田島議員の一般質問は終わりました。